

図書館報

βιβλιοθήκη

「βιβλιοθήκη」はギリシャ語で図書館のことです。

第 44 号
2023年2月27日発行
北陸学院中学校・高等学校
図書委員会
〒920-8563 金沢市飛梅町1-10
TEL(076) 221-1944
印刷所 ハヤシ印刷紙工株式会社

今年度の北陸学院高等学校図書委員会の年間スローガンは、「プラスの知識」でした。このスローガンには、読書を通して様々な新しい知識を身につけてほしいという思いが込められています。電子書籍やネット・ユースが主流となりつつあり、紙媒体の本を読む機会が減ってきている今日、どうしたら図書室の本の利用を増やすことができるのかとても悩みました。また私自身、多くの人をまとめる委員長という役割を担うのが初めてということもあり、正直なところ、何から手をつければ良いのか、全くと言って良い程分からなかったです。

スローガンを達成させるためには、図書委員会が毎年行っている企画に加えて、新しい取り組みを自分から積極的に考えていく必要があったので本当に大変でした。しかも早く企画を進めていかないと、定期テストと期間が被ったり、連休や長期休みに入ってしまったりと、タイミングが合わなくなってしまうので、とにかく難しかったです。そんな中でも、私が一番記憶に残っている企画は、「ミッション祭で行った「図書館クイズ」と「しおり作り」です。取り組みを成功させるためにたくさんの方々を手伝ってもらって、当日は予想をはるかに上回る数の人た



皆さんに支えてもらいながらこの一年間は、図書委員長として活動してきたからこそ経験できたこと、学ぶことができたことがたくさんありました。もちろん、とても大変だった時間間がなくて焦ることも多くあったけれど、それ以上に楽しくて充実した日々を送ることができました。図書委員長になって本当に良かったです。(207H 西部 華音)

ちが図書室に来てくださいました。ミッション祭が閉会となり、その後の片付けまで終わらせたときの達成感は今でも忘れられません。そして二番目に記憶に残っていることは、4月末の生徒総会です。人前に出ることは苦手な私ですが、図書委員長として年間スローガンを皆さんに向けて発表したり、図書室の本の利用促進を呼びかけたりするために、効果的なパワーポイントの作成とプレゼンテーションに力を入れました。チャペルでの生徒総会はとても緊張して、頭が真っ白になってしまいました。それでも、はじめて一人で終えた大きな仕事だったので、記憶に残る貴重な経験になりました。

『Dr.STONE』 稲垣理一郎・Boichi 集英社
私が紹介する本は、アニメにもなっている漫画『Dr.STONE』です。その内容は、ある日突然地球の生物が

『へいわとせんそう』 Noriaki
平和な場面と戦争の場面を左右のページに置くことで、平和な時と戦争の時の違いを分かりやすく理解することが出来ます。重苦しいテーマを扱っていますが、絵をメインに読み進めていくので、戦争の悲惨さで悲しくなるだけということはありません。今の世界にも深く関係している内容なので、ぜひ読んでいただきたい一冊です。(104H 間庭 照喜)

図書委員 おすすめの本

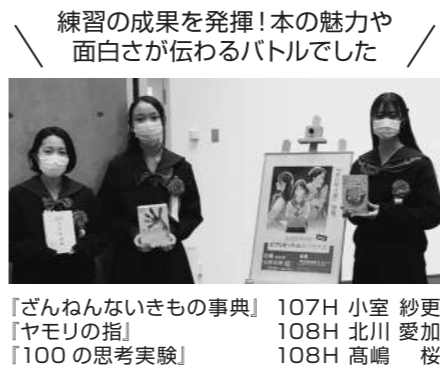
利用年度	2020年度	2021年度	2022年度
高校1年	683	630	1,525
高校2年	275	263	351
高校3年	423	339	341
中学1年	131	298	329
中学2年	295	95	262
中学3年	103	250	166
教職員等	331	470	496
合計	2,241	2,345	3,470

今年度も「図書委員おすすめの本」を発行し、皆さんに読んでもらえるよう図書館内に展示もしました。その中から、3名のイチオシ推薦コメントを紹介します。

『都道府県の持ちかた』増補版 バカリスム ポプラ社
著者は、皆さんご存じの芸人バカリズムさんです。47都道府県全ての特徴や成り立ち、人口・産業から持ちかたまでを網羅した新感覚の地図帳です。豊富な知識の間に、独特の感性と視点から見たユーモアあふれる一言が織り交ぜられており、読書や地理が苦手な人にもおすすめです。(310H 松村 和泉)

『Dr.STONE』は理化学研究所「科学道100冊」プロジェクトにも選出されています。(図書館)

『26』 下村舞
無事に発行でき、感謝いたします。高校図書委員会
委員長 207H 西部 華音
副委員長 208H 上原 朱莉



「ざんねんないきもの事典」 107H 小室 紗更
「ヤモリの指」 108H 北川 愛加
「100の思考実験」 108H 高嶋 桜

学びの杜のいちカレードで開催された大会に、高校1年生の探究学習「サイエンスQuest!」で好成績を収めた3人が挑戦しました。

2022石川県大会
10月30日(日)

中学校が読書活動の実践において優れた成果をあげたことを認められ、国立オリンピック記念青少年総合センターで表彰されました。本校の読書活動は「科学道100冊」を活用したことで大きく前進しました。生徒、教職員、図書館の連携という本校の特色を活かしながら、今後も生徒の読書習慣の定着に取り組みを進めます。

子供の読書活動優秀実践校
文部科学大臣表彰
4月23日(土)



通帳に記録を貯めて... 楽しんで読書を習慣化

図書館報告

「サイエンスQuest!」は、本校ならではの特色ある取組となっています。他にも今年度は、中学では、1年の国語(発酵食品について)3年の沖縄学習(修学旅行に向けて)、高校では、1年の現代の国語(一般論と筆者の主張)3年の現代文B(環境について)等で図書館が活用されました。また授業を発展させて、中学1年と高校106~109Hでは、うつのみや書店員さんを講師に招いて「POP教室」をクラス毎に行いました。

「授業利用」
高校1年の物理基礎・生物基礎の「サイエンスQuest!」は、本校ならではの特色ある取組となっています。

- テーマによる展示
図書館内では、毎月テーマを変えて、本の展示を行っています。
- 4月 図書館へようこそ(絵本)
 - 5月 ゲーム・パズルの本
 - 6月 お金について
 - 7月 「校内読書感想文」コンクール」課題図書
 - 9月 北陸学院関連(創立記念)
 - 10月 学ぼう!SDGs
 - 11月 英語で日本を紹介する
 - 12月 クリスマス絵本
 - 1月 今年は何年
 - 2月 感動したい!最強の12冊
- 〈先生おすすめの本〉
新任の先生による「おすすめの本」を教室掲示、図書館展示しました。
- 5月 若林 健太(数学科)
 - 7月 江田 亨(英語科)
 - 9月 北村 愛子(国語科)
 - 11月 上坂 應文(理科)
 - 12月 荒木 祐輝(保健体育科)
 - 1月 藤田 弘美(国語科)
- 〈読書スタンプラリー〉
10月17日(月)~11月10日(木)
秋の読書週間にあわせてスタンプラリーを実施しています。今年もスタンプを集めた利用者のべ26名には、書店提供の豪華景品を渡しました。
(ホームページ・リニューアル)
本校HP「北陸学院中・高図書館」ページが新しくなりました。図書館からの「お知らせ」も随時更新していきますのでチェックしてください。
(司書 高井 章子)

図書館利用統計

4~12月

〈個人貸出BEST5〉

- ★高校生
- 1位 109H 増田 和音
- 2位 101H 前田 航佑
- 3位 102H 高尾 脩愛
- 4位 201H 長澤 真帆
- 5位 103H 加瀬 遙奏
- ★中学生
- 1位 2年 表 詩織
- 2位 1年 平野 満理子
- 3位 1年 柄田 芹斗
- 4位 3年 岩崎 志帆
- 5位 2年 堀川 瑠莉奈

〈貸出作品BEST3〉

- 1位 Dr.STONE
- 2位 空想科学読本 柳田 理科雄
- 3位 はたらく細菌 吉田はるゆき

〈貸出作家BEST3〉

- 1位 時雨沢惠一
- 2位 東野 圭吾
- 3位 湊 かなえ

先生から

図書委員会の今年度のスローガンは「プラスの知識」でした。皆さんは新しい知識・発見を得ることができたでしょうか?毎日インターネットにふれている皆さんですから、情報を得ていると思っていることでしょうか。情報社会となっている昨今、様々な媒体によって情報を得ることが出来ます。しかし、それはどれだけ頭に残っていますか?そして情報量が多すぎて、脳を疲れさせていませんか?最近疲れたら、それはどこかと言っている人、これにはあまりませんか?そんな人は新しい情報・知識を得る媒体を、少し変えてみてはいかがでしょうか。「本」に変わるだけで、これらの問題は軽減されるはずですが、情報・知識を得ることとはとても大事。人間は新しい情報・知識を求める動物ですからそれは必然です。しかし、不調が出てきては本末転倒。身体にも精神にも優しい、しかもジャンルによっては休息にもなる「本」という媒体にたまには変えてみてはいかがでしょうか。きょうと新しい発見があるはずですよ。
(高校図書委員会担当 下村 舞)

編集後記
無事に発行でき、感謝いたします。高校図書委員会
委員長 207H 西部 華音
副委員長 208H 上原 朱莉

ミッション祭

9月3日(土)

企画内容

「図書クイズ」
in図書館
「しおり作り」
体験

今年度のミッション祭は、「図書館クイズ」と「しおり作り」体験を行いました。当日は本校生徒だけでなく、そのご家族や先生などたくさんの方に参加していただき、とても嬉しかったです。特に「図書館クイズ」では、ミッションの図書館についてだけでなく、漢字や国語の授業で習った内容も出題して、楽しみながら新しい知識を得ることができたと思います。

準備期間に忙しい中でも支えてくれた各クラス委員、先生や図書館司書の方々のおかげで無事にミッション祭を成功させることができました。本当にありがとうございました。

(2008H 上原 朱莉)



選書会

11月14日(月)

うつのみや金沢香林坊店に行き、選書会を実施しました。当日は図書委員有志が、本校図書館の蔵書にしたい本を直接手に取って選びました。



ズラリと並んだ本

私は選書会に参加したことで、自分が普段あまり読まないジャンルの本にも注目して興味を持つことができました。また自分の好みだけでなく、より多くの生徒の皆さんに関心を寄せてもらえることを考えながら、図書館に入れる本を選んだことは大変貴重な経験となりました。

これまで私は自分の本を購入する時に、親や友達から薦められたものを買っていました。ですが今回、薦める側になったことで、広い視野で本を選ぶことができましたし、薦める側の気持ちも理解できました。

(2008H 木村 瑞穂)

購入図書リスト

- 『あーん』新装版 向田 邦子
 - 『浅田家!』 中野 量太
 - 『ABC殺人事件』 アガサ・クリスティー
 - 『ころに響く方丈記』 木村 耕一
 - 『子どもは40000回質問する』 イアン・レスリー
 - 『葉と嘘の季節』 米澤 穂信
 - 『シャーロック・ホームズ傑作短編集』 コナン・ドイル
 - 『スイッチ』 潮谷 駿
 - 『世界史は化学でできている』 左巻 健男
 - 『伝言猫がカフェにいます』 標野 風
 - 『東大名誉教授がおしえる やばい世界史』本村 凌二
 - 『飛べないカラス』 木内 一裕
 - 『同志少女よ、敵を撃て』逢坂 冬馬
 - 『優しい羊たちの祝宴』 米澤 穂信
 - 『ハーバードの個性学入門』 トッド・ローズ
 - 『人質カノン』 宮部みゆき
 - 『人は聞き方が9割』 永松 茂久
 - 『人は話し方が9割』 永松 茂久
 - 『プラスマイナスゼロ』 若竹 七海
 - 『マイナス50℃の世界』 米原 万里
 - 『余命10年』 小坂 流加
 - 『録音された誘拐』 阿津川辰海
 - 『夜叉ヶ池・天守物語』 泉 鏡花
- 選書会で購入した本は、図書館に展示されています。皆さん、ぜひ利用してみてください!

石川県高校合同読書会

8月2日(火)

県少年総合研修センターで行われた読書会に、図書委員4名が参加しました。本校からは4年ぶりでしたが、読書を通じて、他校の生徒と交流し相互理解を深めることができました。

私は8月、3年ぶりに開催されることになった合同読書会に参加しました。読書会では、県内から集まった高校生同士で、本の解釈を巡って、白熱した議論を交わすことができました。同じ本を読むという体験は滅多にできないことですし、普段手に取らないような本を読みとくことはとても刺激的でした。

今回の読書会も楽しみです。

(109日 上田 知弥)



参加した分科会
『アンと青春』『西の魔女が死んだ』

読書は人に、現実世界とはもう一つ別の世界、想像力の世界を与える。

その世界は、基本的に、読者それぞれに固有である。同じ小説を読んでも、そこから受ける印象、感想は相対的、すなわち「人それぞれ」である。

しかし、昨今もはややされるようになった「人それぞれ」や「多様性」という言葉には、ある危険性が孕まれている。価値観や趣味・嗜好、物事は是非など、あらゆる評価的行為が個人に帰属させられ、結果、そうした種類の事柄について、人と人の相互交流の力が弱まる可能性が考えられるのである。他者の下す評価に対して、その人固有の価値基準が過度に保護されてしまい、何も言うことができなくなる。これは、特に読書という領域においては、由々しき事態である。

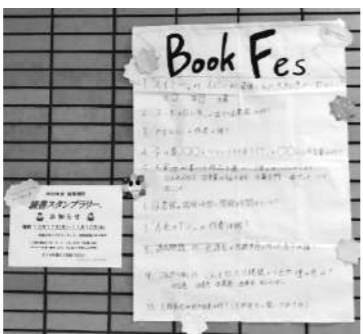
書物から広がってゆく想像力は、本来、個人的なものであるよりは、無意識下に共有される人類規模の領域であったはずだからだ。個別化された想像力は、単なる空想にすぎない。

人それぞれに固有の想像力の世界を、一冊の本という具体物を通して、相互に交流させること。読書会とは人と人の想像力の接続の謂いである。今回の読書会では、自分と他者の想像力の相違と、そしてまた、他者の想像力と自らのそれを交差させることによる豊穡な世界の生成とを、改めて確信した。そのことだけでも、よい会であったと言える。

(2007H 堀岡 湧希)

Book fes.を行いました

私はBook fes.を通して、私自身も、また同じクラスの人たちや先輩などにも、本や国語の教科書に載っている物語を思い出してもらったことができたのではないかと思います。今後また図書委員になることがあったら、Book fes.を行い、皆が笑えるような面白いクイズも作りたいなと思っています。



初めての試みでした

二〇二二年度校内読書感想文コンクール

『これからの生き方』 中学1年 川島 徳真

『七カイを科学していく私たち』 中学3年 三田美波穂

『今までの友だちと、これからの出会い』 中学3年 古瀬ひなの

以上の3点は83点の提出作品から学校代表に選出されました。

金沢市中学校読書感想文コンクール自由読書の部 最優秀賞

石川県中学校読書感想文コンクール 最優秀県知事賞

『今までの友だちと、これからの出会い』

中学3年 古瀬 ひなの

図書『きみの友だち』 重松 清 著

この本を読み始めると、私の心はぎゅゅと締め付けられて苦しくなりました。なぜならここに登場する子どもたちが経験する、学校という集団生活の中での孤独や焦燥感、そして、それから脱したために芽生える意地悪な仲間意識の描写がとてもリアルだったからである。その投げ捨てられるような言葉は時に凶器になることを、私自身経験したこともあった。

交通事故で足が不自由になった恵美と生まれつきの病気で学校を休みがちな由香は、ハンデキャップを抱えることが理由でクラスで孤立していく。一方でふたりはかけがえのない友だちになつていく。恵美は気が強く、交通事故のせいで気持ちも荒れて、それまで仲の良かった子たちを敵に回してしまう。そしてほとんど話したことのない由香に話しかけることに、由香は離れることなく恵美をいつも気にかけてくれる存在になる。恵美はなかなか由香に謝ることができないけれど、由香と一緒にいることで自然と心がいやされていく。私は、謝れない恵美にもどかしさを感じながら、でも反省して徐々に優しい心

取り戻す恵美のことを思い、事故で足が不自由になるといふことがどんなに辛いことだったか、わかる気がした。

もし自分がその立場だったら、やはり学校へ行けないかもしれない。そして、そのつらさを一番理解できたのが由香だったのだと思った。ふたりはクラスでぼつんと孤立してしまうがお構いなし。嫌なことを言われても落ち込んだりもしない。そんなふたりをクラスメイトは白い目で見るけれど、それはどこからやましさも含んでいるんだと考えた。私もその気持ちがあるとなくわかった。たつたひとりでもここまで思い合える友だちがいたら、そして孤立してもふたりのような心境になれたら、どんなに良いだろうと思った。

この本の中では、ふたりに関わる何人かの子どもにも焦点が当てられ、それぞれの背景や気持ちについても描かれている。そこからわかるのは、一見悩みもない子や意地悪でわがままな子にも、それぞれに苦悩や正義みたいなものがあるということだ。クラスの人間関係図を作った自分の居場所をいつも気にして悪夢まで見してしまう子、仲が良いと思っていた子

とうまくいけなくなつて、心因性視力障害を起こしてしまう子、前の学校でいじめを受けて転校し心機一転新しいスタートを切った子、それぞれが恵美と由香に関わりながら何かに気づき、苦悩を乗り越え成長していく。

そうだ、私を含めてみんな子どもは不完全なところがまたまた沢山ありすぎるのだ。そこに由香のような子がいたら、きっと何か暗いトンネルの向こうに見える光のようなヒントをもらえるのかもしれないと思った。由香は病気のせいで中学三年生で亡くなってしまう。自分の命がそう長くないことをわかつていたから毎日を懸命に生きていた。恵美と由香には、クラスで誰と誰が仲が良いとか、孤立してみんなにどんなふうに見えるかなんて、気にしている時間はなかったのである。恵美はたつたひとりの友だちを失ってしまうけれど、ひとりでも強い気持ちでいる姿には清々しささえ感じる。それは、「わたしは一緒にいなくても寂しくない相手のこと、友だちって思うけど」という言葉からもよくわかる。



友だちというものは、今は同じ学校にいて会う機会があつても、いつか別々の道に進んだり、遠く離れて暮

らしたりすることもあるだろう。でも、かつて一緒に過ごした時間を思い出すだけで勇気がもらえたり、ほんわか温かい気持ちになったりするならば、それは友だちということなのだと思つた。また、物理的に離れるだけでなく、成長するにつれ考え方や価値観も変化するかもしれないし、それによって仲が良かった人と気持ちに距離ができることもあるのかもしれない。でも、小学生の頃一緒に遊んで楽しかった思い出や、中学生の時一緒に励まし合っていた頃、時間を消費することがない。それらを否定せず、自分という人間を作ってくれた一部としてずっと大切にしていきたいと思う。

この本の中で一番私の心を打った言葉は、亡くなった由香に恵美が送った言葉である。「優しい子は天国にいくときに、『ももこ雲』を空に残す。自分に似ている子どもを見守るために『ももこ雲』になる。優しい子どもはたいがい要領が悪いから、あまりみんなと仲良くできない。『ももこ雲』は強い陽射しをさきぎって、がんばれ、と言う。空にはつんと浮かんでは、ちゃんと見てるよ、と伝える。ときどき涙を流す。それが雨になる。誰かを見守つてよ、と空に祈つた。」

「ももこ雲」を空で見つけた時、私も勇気もらえるような気がした。今までの出会いとこれから出会うだろう友だちのことに思いをはせ、自分を見つめ直す夏休みになった。

第46回校内読書感想文コンクール

優秀賞

『ソロモンの指環』



109H 上田 知弥

もし私が沢山の動物と暮らすことになったらきつと自宅は荒廃した様相を呈してしまうだろう。そればかりかもはや私には根気強く動物の世話をを行うことが難しくなってしまうかもしれない。

『ソロモンの指環』は動物の行動を観察する日々をユーモアと洞察を交えて描いた本だ。著者であるコンラート・ローレンツ氏は多くの種類の動物と暮らしていた。それは魚類から猿まで多種多様である。

『ソロモンの指環』の前書きには、この本が怒りをもつて書かれたとある。なぜなら「動物のことを称しながら動物について何一つ知らぬ者たち」が当時の世の中には横溢していたからだという。実を言うと私も語ったことこそないものの、動物についてかなり無知な部類に入ると自負している。なぜなら猫や犬をはじめとした愛玩動物にすら近寄りたくとすらないからだ。実は私は動物のことを怖れている。さらには、おそらく多くの人が好きであろう動物園すらも私にとってはあまり快適な場所ではない。学校で教室がうるさくなっている時、先生や一部の生徒は皮肉を込めて「ここは動物園のよう

だね」と言い表すことがある。どこもなく動物園は騒がしい、という負のイメージがあるように思える。

この本で特に取り上げられていた動物が「カラス」だ。筆者はカラスの持つ高い知性について注目していた。確かにカラスは大変頭の良い生き物だと私も思う。私がそう思うようになったのには理由がある。ある日車に乗っていると急に空からクルミが降ってきて車が鈍い音をたてそのクルミを踏み潰した。後ろを振り向くとカラスがクルミをついばむ姿が見えたのだ。クルミは確かに美味だが、その殻はとても固く割りにくい。カラスもそれを理解してあえて道路の上空で車を待ち構え、車にクルミの殻を粉砕してもらおうとしたのだろう。私はそのとき、カラスの抜け目のなさに感心したものだ。おそらく多くの人は、カラスは賢い生き物というより、ずるがしこく、抜け目のない生き物であると思っているのではないか。

しかしカラスと長い間生活を共にした筆者の話を読んだ後ではそんな侮蔑のような考えはたちまち消え失せた。筆者が飼っていたのはコクマルガラスという種類であった。そして

彼が飼っていた中にあるつがいのカラスがいた。しかしある日オスの方が行方不明になってしまい、メスだけが取り残されることになる。しかし時が経ったある日、筆者の家の上をカラスの大群が通りかかった。それはやがてどこかへ行くものと思われた。だがその中から一羽のオスのコクマルガラスがにわかに、そのメスの隣に降り立ち、その二羽は恰も古い仲のように親密に振舞ったのである。筆者はそのオスがかつて行方不明になったオスだと確信したそう

だ。私は月日を経ても色褪せぬ愛は人間だけの特権だとすっかり思い込んでいた。だがそれがカラスにもあるのだと知って、私はこの物語を読んだとき衝撃を受けた。カラスがこのように高度な知能を持っているとは露ほどにも思わなかつたのである。

この本のタイトルである、『ソロモンの指環』というのは『ソロモンの遺訓』という物語に由来している。雅歌、箴言、コヘレトの言葉を著したとされるソロモン王。彼の持っていたとされる指輪だ。その指輪をはめることでソロモン王はあらゆる生物と会話ができたと言われている。

賢明な仲裁として有名な『ソロモンの審判』を行ったのはソロモン王だとされている。古くから知恵者の象徴である彼が指輪を通してどのようなことを見出していたのかは気になるところだ。だがきつとそれは学問

的なものなのだろう。私はソロモン王が動物に理解を示し愛していたのだと思う。

「動物愛護」という概念は動物を虐待する人がいるからこそ生まれたものだと思う。私たちはどこことなく動物を人間より下等なものだと位置づけている節があるように思える。しかし私は動物が人よりも下等だとは思わない。なぜなら『ソロモンの指環』を読んで動物への理解が一段と深まったからだ。つまりここから言えることは、偏見は無知が引き起こしているということだ。今思えば、私の恐怖もそこからきていたのだと思う。動物と会話するために魔法の指環は必要ない。相手のことをよく知ること。それこそが双方に良い関係をつくる。動物だけに限ったことではない。世界に蔓延る差別や偏見はこのように理解によって解決されるべきと気付く。『ソロモンの指環』は単に動物たちとの生活を描いた作品ではない。そう思った。

『ソロモンの指環』

コンラート・ローレンツ 早川書房



『ソロモンの指環』は時代をこえる良書として、理化学研究所の科学者が選んだ「科学道クラシックス」の一冊です。(図書館)

校内読書感想文コンクール 審査結果

夏休みに本校高校生に読書感想文の宿題を課し、提出された作品をもとに「校内読書感想文コンクール」を実施しました。その審査結果をここに報告いたします。

☆最優秀賞

『1アイ』 201H 宮村 拓磨

☆優秀賞

『ソロモンの指環』

109H 上田 知弥

☆優良賞

『アンと青春』 109H 越村 美優

『自分のなかに歴史をよむ』

301H 那谷 桃子

☆佳作

『声の網』 307H 中村 雛姫

『対岸の家事』 108H 上内 快里

『対岸の家事』 209H 眞島あずさ

『その扉をたたく音』

210H 柳瀬 七海

『1アイ』

309H 米澤 葵

以上9作品の入賞が決まりました。なお校内入賞作品のうち、宮村拓磨さん、上田知弥さんの読書感想文は、II類(自由読書の部)で石川県の「読書感想文コンクール」に、本校代表として選出されました。また、宮村さんの作品は自由読書部門で最優秀賞を受賞し、県代表として「青少年読書感想文全国コンクール」に出品されました。(国語科担当 遠藤 良幸)

中学校図書委員会

● 図書委員会の活動を通して



同じ本の感想を分かち合います

私は図書委員会活動を通して、本を読んでもらうことの難しさを実感しました。私自身は本を読むことに抵抗が全くないので、多くの人たちに図書館に行ってもらうにはどうすればいいのか、思いつかないこともありました。しかし、先生や委員さんたちの協力もあり、企画したイベントは成功することができたと思います。常に誰かのために考えて行うことは初めてでしたが、それでも楽しくできたときは達成感を味わうことができ、良い経験となりました。

中学3年 柄田 萌結

● 第1回「読書会」に参加して

中学3年 坂本 美晴

今年度第1回の読書会では、宮部みゆきさんの『チヨ子』という物語を読みました。物を大切にすること、大事さが分かったという意見や、幼い頃大事にしていたぬいぐるみのことを思い出したという感想が、多く出ました。私は、主人公が着ぐるみを着ると目の前の人たちがそれぞれの思い出のぬいぐるみに見える場面が、とてもミステリアスでおもしろかったです。また、物を大切にしている心はその人の性格の一部を形作っているのではないかと思いました。



● 第2回「読書会」に参加して

中学3年 鈴木 美月

第2回読書会は、二つのグループに分かれて行いました。夏休みの読書感想文の課題図書だった、『ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー』と『きみの友だち』です。

私は『きみの友だち』のグループに入りました。最初はそれぞれの心に残った場面から話し始め、途中からどんな友だちが好きか、などを話しました。自分が読んで心の中で思ったことを他の人に打ち明ける中で深く共感できることがあったり、話が広がって笑い合えたりして盛り上がり、とても楽しむことができました。参加して良かった、と思いました。



● クラス図書を配架しています

中学2年 表 詩織

私は中学1年生のときから図書委員をしています。初めてのクラス図書選書の日、私はいろんな本を選びました。自分が気になる本、好きな本を選びましたが、クラスメイトはあまり読んでくれませんでした。それで私は「次からはもっとみんなが読んでくれる本を選ぼう」と決めました。そうしたら、最初よりはみんなが手に取ってくれました。

中学2年生になって、また図書委員になりました。2年生になってからも、クラス図書を選書するときはみんなが読んでくれそうな本を選んでいきます。ゲーム系の本や、行事で紹介された本も入れています。例えば、修養会のお話の中で紹介されたロシア



の絵本『おおきなかぶ』と、ウクライナの絵本『てぶくろ』などです。ロシアとウクライナはニュースなどで知っているとおりに、戦争をしています。けれどもこれらの絵本ではそれぞれに、お互い誰かを助けています。このお話を修養会で聞いたとき、「この本をクラス図書に選ぼう」と思いました。良いメッセージが込められていると思ったからです。

また、読書会で感想を言ったり聞いた『ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー』も、クラス図書に入れました。さらに、本屋さんでの選書会では同じ著者の書いた『両手にトカレフ』という本を選びました。このようにして、一冊の本が次の本につながっていきます。

1・2年生での図書委員活動は楽しかったです。3年生になっても図書委員になろうかな、と思っています。

● 「選書会」に参加して

中学2年 小村 優奈



リクエストを探そう

本が揃うにつれて達成感が湧き、リクエストした人たちが喜ぶだろうな、と思うととてもうれしかったです。自分が読んでみたいと思っていた本も見つけることができ、図書室がより良い場所になるようにできて良かったです。

- ★実施日 10月5日
 - ★参加生徒数 13名
 - ★場所 うつのみや金沢香林坊店
 - ★入った冊数 35冊
 - ★小説すずめの戸締まり
 - ★「掏えば手には」ハヤブサ消防団
 - ★「両手にトカレフ」世界で一番美しい分子図鑑
 - ★「天久鷹央の推理カルテ」
 - ★「さくらいろの季節」など。
- どうぞ図書室で借りてください。